

第 46 代横綱朝潮太郎記念像

朝潮太郎という相撲取りは、1959 年に日本の国技の頂点である横綱に昇進し、徳之島の誇りとなりました。朝潮は後に親方になり、日本初の外国人大関力士（ハワイ出身の小錦）の育成に携わったことによって相撲の国際的な普及に貢献しました。

当時十代だった朝潮が、稽古の相手に怪我をさせないよう手加減をする優しい巨人としての評判を築いていた頃、徳之島の経済はまだ第二次世界大戦後の困難のさなかにありました。19 歳で島を離れた朝潮は、神戸の相撲部屋に入門し、1948 年に初土俵を踏みしました。

朝潮は、1952 年に朝潮の名を取りました。本場所で 5 回優勝し、そのうちの 4 回は毎年 3 月に行われる大阪場所においての優勝でした。1959 年、30 歳で相撲史上第 46 代横綱になりました。しかし、その後の成績は振るわず、もう一度優勝した後、1962 年に引退しました。

朝潮は 1971 年に高砂部屋の親方になりました。親方としては、四代目朝潮太郎（朝潮自身は三代目としてその名を継承していました）とハワイ生まれの日系サモア人である小錦が、二番目に高い力士の地位「大関」に昇進するのを見届けました。小錦は、日本以外の生まれでこの地位に到達した最初の力士で、この歴史あるスポーツにおいて、後に続く多くの外国人力士のために道を開きました。

朝潮は、1988 年後半に 58 歳で脳卒中により亡くなりました。

横綱の化粧まわしを身に着けた朝潮の像は、地元の人々が中心となって集められた資金によって、1995 年に完成しました。像の背後には、島の最高峰、高さ 645 メートルの井之川岳がそびえています。